

情報共有

1/2

1/8

18:00

(1枚非管理用)

取扱注意

公開不可

暫定版

NISA班 ← プレス発行部 プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成 23 年 12 月 18 日（日）11:00～11:15

場所：東京電力本館 101 会議室

先方：記者約 10 名（カメラ 3 台）

当方：広報部

配布資料：なし

よりプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. 濃縮廃液貯槽の設置場所を教えてほしい。

A. 蒸発濃縮装置で処理後の濃縮廃液を最後に保管している場所。（ポンチ絵にて場所も説明。）

Q. 蒸発濃縮装置 3 A～3 C の残留している放射性物質を含む水を抜き取る目的は何か。

A. 蒸発濃縮装置からの漏えい対策に万全を期すため、滞留している水を移送する。

Q. 三菱重工関係者の容態に変化はあったのか。

A. 三菱重工から特に報告は受けていない。

Q. 東京電力社員 1 名がノロウイルスと診断されたとのことだが、社員の年齢と業務内容を教えてほしい。

A. 30 歳代の男性で、福島第二原子力発電所内にあるバックオフィスで仕事をしている。

Q. ノロウイルスが発症した東京電力社員は、本日も勤務しているのか。

A. 本日も休んでいた。当該社員は 16 日までは勤務していたが、17 日は体調不良により休んでいた。ノロウイルスの診断結果については、17 日の夜に報告を受けている。

Q. 福島第一安定化センターは福島第二原子力発電所構内にあるのか。

A. 福島第二原子力発電所の免震重要棟内にある。

Q. 現時点でのノロウイルスの患者数や体調不良を訴えている人は増加しているのか。

A. 特にそのような報告は受けていない。

以上

情報共有

12/19

12:00

取扱注意

公開不可

暫定版

(5枚非管理Xモード)

N1S924E←→PLA24A4M プラント状況(本店会見)議事メモ

日時: 平成23年12月18日(日) 18:00~19:00

場所: 東京電力本館3階大会議室

先方: 記者約10名(カメラ3台)

当方: 原子力設備管理部

広報部

## 配布資料:

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第二百六十八報)
- ・福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について(第二百六十一報)
- ・福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(12月17日採取分)
- ・福島第一原子力発電所構内における海底土の放射性物質の核種分析の結果について(続報54)
- ・集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果
- ・【参考資料】集中廃棄物処理施設配置図

よりプラント状況に関して説明。

## 質疑:

Q. トレンチの溜まり水の量が  $125\text{m}^3$  から  $230\text{m}^3$  に訂正とのことだが、なぜ倍近く訂正になったのか。

A. トレンチとプロセス主建屋の設置部分に約3m程度の深い溝があったため、当初報告させていただいた水量よりも多くなってしまった。

Q. トレンチとは従来どのような役割なのか。汚染水を移送する配管なども収められているのか。

A. 地下にある側溝で、基本的には電線などが収まっている。汚染水を運ぶ配管などは設置されていない。

Q. トレンチの高さはどの程度あるのか。

A. 約3m程度。

Q. 溜まり水については、地下水か結露水とのことだが、その根拠を教えてほしい。

A. トレンチ内の天井のボックスからケーブルを伝って水の流入を確認しているため、地下水か結露水の流入と推定している。

Q. 雑固体廃棄物減容処理建屋と平行しているトレンチには水は溜まっていないのか。

A. 当該箇所について溜まり水は確認されていない。

暫定版

Q. 溜まり水の表面線量が  $3\text{mSv}/\text{h}$  のことだが、高濃度汚染水や地下水が流入しているのではないか。

A. 当該箇所のバックグラウンド線量が  $1.7\text{mSv}/\text{h}$  と高いため、表面線量についても影響を受けていると思われる。

Q. プロセス主建屋からトレーニングに漏れ出ているのではないか。

A. プロセス主建屋の水位が OP+1,739mm で、溜まり水の水位はそれよりも高い位置にあることから、プロセス主建屋の高濃度汚染水がトレーニングに漏れる事はないと考えている。

Q. プロセス主建屋の滞留水の表面線量を教えてほしい。

A. 以前、タービン建屋に溜まっていた水の表面線量は約  $1,000\text{mSv}/\text{h}$ 。

Q. トレーニングの溜まり水の核種は把握しているのか。当該トレーニングが海につながっている可能性はあるのか。

A. 現在、サンプリングを実施している。当該トレーニングについては海につながっていないと判断している。

Q. プロセス主建屋の滞留水がわずかに漏れたことによって  $3\text{mSv}/\text{h}$  に薄まっているのではないか。

A. プロセス主建屋とトレーニングの水位差などから考慮して、プロセス主建屋からの流出の可能性は低いと考えている。また、最近のプロセス主建屋付近の地下水の水位が約 7 m と高いレベルで推移しているので、入ってくる可能性が高いのは地下水だと考えている。

Q. 溜まり水の表面線量が  $3\text{mSv}/\text{h}$  で、バックグラウンド線量  $1.7\text{mSv}/\text{h}$  の約 2 倍だが、原因は把握しているのか。

A. 今後サンプリングの結果をもって判断したいと考えている。

Q. ケーブル管から漏れている水の表面線量は把握しているのか。

A. 現在評価中だが、明らかにバックグラウンド線量よりも高いとは聞いていない。

Q. ケーブル管からの漏えい量は 1 時間あたりどの程度なのか。

A. 1 時間あたりの漏えい量や程度については確認中。流入については現在も止まっていない。

Q. 雑固体廃棄物減容処理建屋と平行しているトレーニングに水が溜まっているのはなぜか。

A. 当該トレーニングは水が溜まっているトレーニングよりも高い場所に位置しているため。

Q. 水が溜まり続ければ雑固体廃棄物減容処理建屋と平行しているトレーニングにも水が溜

暫定版
-----

まるのではないか。

A. 流入のペース次第だと考えている。

Q. トレンチ内に水が溜まり、水圧でプロセス主建屋の止水箇所が壊れる可能性があるのではないか。

A. 調査状況を踏まえ対応を検討する。

Q. ケーブル管からの止水作業は行ったのか。

A. 止水作業などについては明日以降になる。

Q. 水の溜まっていたトレンチを最後に確認したのはいつか。

A. 当該箇所については定期的に確認している場所でないが、少なくとも止水工事を行った4月頃には確認している。その他にも巡回したことがあるかは確認中。

Q. トレンチの水が地下水に流出する可能性はないのか。

A. サブドレン水位が O.P. 7,000mm 程度、トレンチ水位が O.P. 2,500mm 程度と水位差があるので、トレンチの水が地下水側に流出する可能性が低いと考えている。

Q. トレンチ内にあるボックスの構造を教えてほしい。

A. ケーブル用のジャンクションボックスと思われるが、詳細については確認する。

Q. サブドレン水の表面線量はどれくらいなのか。

A. 確認するが、バックグラウンドと比較しても高くないと思われる。

Q. 地下水の線量自体が高いという可能性もあるのではないか。

A. サブドレン水のサンプリング結果には上昇傾向がみられないため、その可能性は低いと思われる。

Q. 溜まり水の 230m<sup>3</sup>はその程度の時間で溜まったのか。

A. 流入経路や量については現在確認中。

Q. プロセス主建屋の地上1階の高さはどの程度になるのか。

A. O.P. 10m 程度。

Q. プロセス主建屋とトレンチを仕切る壁に穴が空いているのではないか。

A. 止水工事をしているので、貫通はしていないと考えている。

Q. B部分のトレンチは平面図で見ると左方向につながっているが、どこかにつながっているのか。

A. 確認中。

Q. 毎日配布されている「集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果」において、本日数値が出ているのが⑦焼却工作建屋西側だが、配布された平面図でいう

暫定版

とどのあたりになるのか。焼却工作建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋の間あたりか。

A. その通り。

Q. 溜まった水は今後どこに処理されるのか。

A. サンプリングの結果を踏まえて処理方法を検討する。

Q. ケーブル管路のサイズは。また、水が落ちてくるのはケーブル管を伝って落ちてくるのか、それともケーブルの中から落ちてくるのか。

A. ケーブル管の直径は5cm程度。水はケーブル管を伝って落ちてきている。

Q. このトレントは地下にあるようだがどのように中に入ったのか。

A. トレントへはB地点近傍のマンホールから中に入り、漏えいを確認した。

Q. 水の流入経路はケーブル管と地下水ということだが、3mSv/hという線源はどちらが由来だと推測しているのか。

A. 現在調査中。今朝現場をパトロールした際に水たまりを確認したが、昨日までのサブドレン水の核種分析において放射能濃度は低い水準を維持しているので、外部に漏れだしている可能性は低いと考えている。

Q. 地下水が放射性物質を含んでいる可能性はどの程度と考えているのか。

A. 直近のサブドレンの水を測定している訳ではないが、7箇所については毎日測定しており上昇傾向が見られないため、地下水が放射性物質を含んでいる可能性は低いと考えている。

Q. 日々の核種分析においては顕著な結果が出ていないが、7箇所以外のところから高濃度の放射性物質を検出する可能性は。

A. 現在核種分析をしているサブドレンの場所は水の流れの方向全てを行っているので、他の場所における核種分析もほぼ同じ結果になると思われる。

Q. この場所を最後に点検したのはいつか。

A. 止水工事が終了した4月18日以前には点検しているかと思う。

Q. それ以降点検を行わなかつた理由は。

A. 定期的な点検は行っていないと思うが、スポット的な点検を行っていないかも含めて確認する。

Q. 蒸発濃縮装置の水漏れの際にパトロールが徹底されていなかつたことを指摘されたが、再びパトロール不足により漏えいの発見が遅れたことについてどう考えているか。

A. 反省している。前回いつパトロールしたのかも含めて詳細に調査してまいる。

Q. 地下水が原因である場合、ケーブル管路から入ってくるのか。それともトレントの割れ目から入ってくるのか。

暫定版

A. 両方の可能性を考慮に入れて調査している。

Q. ケーブル管からどのように垂れているのか。

A. ケーブル管の先からぼたぼた垂れているという認識である。

■■■■■から流入水と滞留水のサンプリング結果を口頭にて説明。

トレンチ内滞留水 セシウム 134:  $4.2 \times 10^3 / \text{cm}^3$

セシウム 137:  $5.4 \times 10^3 / \text{cm}^3$

流入水 セシウム 134:  $1.3 \times 10^{-1} / \text{cm}^3$

セシウム 137:  $1.2 \times 10^{-1} / \text{cm}^3$

Q. 今説明していただいたサンプリング結果から何か推測できることはあるのか。

A. 現時点では言えることはない。今後も引き続き調査してまいりたい。

Q. トレンチは止水工事の時やその後に、汚染水が漏えいしたことは無かったのか。

A. 無かったと記憶している。

Q. 地下のトレンチであることを考えると、放射性降下物が流入することはないと思うが、なぜ高い放射能濃度が検出されたのか。他の汚染源は何であると考えているのか。

A. 調査結果を待って評価してまいりたい。

■■■■■より、今後土日祝日の午前中は会見を行わず、午後はブリーフィングのみとさせていただくことを説明。

以 上